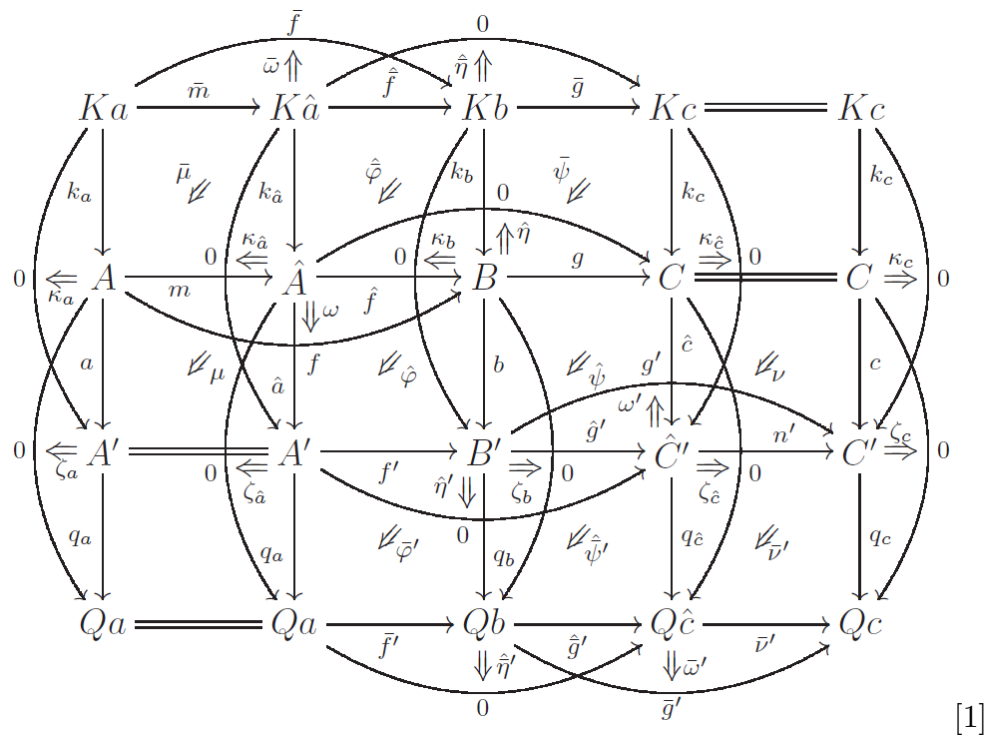


@alg_d がひたすら図式の計算をした回

@alg_d

た の し い け ん ろ ん



[1]

ということで，こんな意味不明な図式は扱いませんが，圏論では図式というのが重要，というのは皆さんなんとなく知っているんじゃないでしょうか．[2]には「本だと図式の『筆順』が分からない」という話載っていて，確かにそうかもなあと思いますが，そうすると図式の「計算」の仕方というのはますます分からない*1ののではないのでしょうか？（そもそも図式の計算とは？）というわけで，この講演では私@alg_d が黒板を使ってひたすら図式の計算をして見せますので，見て覚えてくださいというのが趣旨です。数学的な内容としては，圏とか関手はなんとなく知ってるよという人向けに随伴関手とはなんなのかという

*1 [7] を読めば分かる説 is ある

のを説明し、基本的性質を証明していこうと思っています。

予備知識については以下の通り。まず圏・関手の定義は既知とするので定義(と例)だけは [3][4][5][6][7] などを見て覚えてきてください。自然変換・(余)極限・随伴関手は定義から説明しますが例くらいは知っていた方がより理解しやすいかと思います。

参考文献

- [1] Mathieu Dupont, Abelian categories in dimension 2, <http://arxiv.org/abs/0809.1760>
- [2] 圏論の歩き方委員会, 圏論の歩き方
- [3] マックレーン, 圏論の基礎
- [4] 中岡宏行, 圏論の技法
- [5] E. Riehl, Category Theory in Context, <http://www.math.jhu.edu/~eriehl/>
- [6] Awodey, Category Theory, <http://www.andrew.cmu.edu/course/80-413-713/notes/>
- [7] alg-d, 圏論 | 壱大整域, http://alg-d.com/math/kan_extension/